

## 「平和の島・沖縄」を求める沖縄県民との連帯声明

1995年9月4日に起きた沖縄在留の米兵による少女暴行（強姦）事件に対する沖縄県民の怒りと平和を切望する叫びによって顕在化した沖縄軍事基地問題は、わたしたちが沖縄県民に未だ一方的に「基地の島」として多大の「犠牲」を負わせ続けていることを明らかにしました。

このことは同時に、目の前に軍事基地を見ず日常の生活の中にその脅威と危険を感じないまま戦後50年を過ごし、沖縄県民の痛みを知らず無視してきたわたしたち日本国民の罪責をも明らかにしました。

わたしたちは、特に以下の点から深く悔い改め、「ヌチドゥタカラ（命こそ宝）」と平和を求める沖縄県民の方々と連帯することを、今ここに表明致します。

### 1. 戦争は最大の公害である。

軍事基地は戦場でもなく、その備えをなすことを第一の存在目的としており、戦争勃発時には破壊目標とされ、また敵を破壊する直接の兵站地としての役割を担っています。破壊目的のための加害者・被害者、このいずれかの役割を背負わされることは、人と人、人と大地との共生と平和を願う者にとっては、その希望の道を阻むものであります。

わたしたちは戦争こそが人と大地の命を徹底的に痛め傷つける最大の公害であり、また日常的に戦争の備えをなす軍事基地の存在そのものも公害を生みだし作り出す源であると考えます。

### 2. 軍事基地は、人と人、人と大地との共生を阻むものである。

わたしたちが生きるこの大地は、人と自然との命を抱き育む共生の場として与えられ託されている賜物です。

軍事基地がそのような大地である沖縄の自然と人々の生活の営みとの共生を阻むものであることは、自らの土地を奪われ闘い続けてきた「反戦地主」の存在と彼らの訴えから今や明白であり、未だ返還の見込みのないままに軍事基地が在り続けることは、命と生活の営みを次世代へと継承しながら沖縄の大地で生きて行く希望を沖縄の人々から剥奪し続けることとなります。

さらに軍事基地で日常的に行われる軍事演習と軍用機の離着陸は、単に大地の自然を破壊するだけでなく、沖縄の人々が近づくことを阻み、沖縄の人々の毎日の生活を脅かし、深刻な生命の危険と不安をもたらします。

こうした軍事基地の存在はわたしたちの気づかないところで、被害者・加害者共にその双方の心を蝕んでいます。そのことをわたしたちは日毎に直接被害を受け

ている沖縄の人々だけにではなく、軍事基地の中で働く米軍人（例えば、暴行事件の加害者たち）に見ます。今回のような凶悪暴行事件は沖縄に軍事基地が設けられてから繰返し起ってきたし、これからも軍事基地が在る限り繰返し起って行くのです。

### 3. 日本本土から「捨て石」とされ切り捨てられてきた沖縄の歴史を繰返してはならない。

足尾鉍毒事件や水俣有機水銀中毒事件をはじめとする日本の公害事件は、その地に住む一部の人々に日本近代化のための「犠牲」を負わせることを強い、彼らの命と大地の自然を徹底的に蝕む事件でした。そのことを考えるとき、今また同じように「日本本土のみの安寧と繁栄のため」沖縄を切り捨て「捨て石とする」ことは決して許されません。

今日の沖縄は、1879年の琉球処分において日本に併合された後、太平洋戦争末期には日本軍による“捨て石作戦”において日本で唯一の悲惨な地上戦が行われ島民の四分の一の方々が亡くなり、そしてさらに戦後1951年のサンフランシスコ講話条約では日本の独立と引き換えに切り捨てられてきたという歴史を持っています。

こうした沖縄の歴史と現在の軍事基地問題は、現在のわたしたちの平和と安全が沖縄の人々の命と大地を犠牲にして成り立ち、その犠牲を今もわたしたちが沖縄の島に押しつけ続けていることをわたしたちに直視させます。

今わたしたちは、平和を求める沖縄県民と共に、心から願います。沖縄が、「基地の島・沖縄」から、一日も早く「平和の島・沖縄」となりますように！

以 上。

1996年3月19日

日本バプテスト連盟 公害問題特別委員会